

札幌市保養センター駒岡の活用に係る基本方針 概要版

施設の概要

【開設の背景】

「低廉で健全な保健休養の場及び他の世代との交流を促進する場を提供する」ことを目的とした「老人休養ホーム」として、昭和61年に南区真駒内の駒岡地区に設置
同時期に建設された駒岡清掃工場で発生する余熱や電気の供給を受け、暖房や照明に利用

【現在の機能と利用者数】

利用者数は平成24年度
宿泊...客室数17室、利用者9,790人
休憩...利用者88,821人（教養講座の利用者7,814人を含む）
屋内外パークゴルフ場、屋外パットゴルフ場、朝市...利用者26,000人
合計利用者数124,611人
その他機能
屋内施設...レストラン、売店、陶芸室、娯楽室、研修室など
屋外施設...熱帯植物館、日本庭園、屋外ステージなど

基本方針策定までの経緯

【平成22年度行政評価（事業仕分け）の実施】

社会保障費の増加等により厳しい財政状況が続く中、以下の観点から「不要（廃止）」との結果

- 行政が担うべき事業の必要性が不明確なこと
- 毎年度の運営や大規模修繕に多額の経費を要すること など

【存続を求める声】

多くの市民から存続を求める意見や署名が寄せられたほか、市議会に対しても存続を求める2件の陳情が提出され、全会一致で採択

【あり方検討委員会における検討】

第三者からなる「札幌市保養センター駒岡あり方検討委員会」（以下「検討委員会」）を設置し、平成23年1月から平成24年11月まで8回にわたって議論

検討結果の概要

- 民間施設では担うことが難しい役割を十分に果たすことが期待できることから、今後も市の施設として存続させるべき
- 存続にあたっては、維持運営コストの縮減などの諸課題を解決すべき

保養センター駒岡の活用に係る基本方針

検討委員会の検討結果を受け、超高齢社会における課題に複合的に取り組むため、保養センター駒岡を存続させ、これまで培われてきた交流拠点等の成果を活かしながら、民間施設では担うことが難しい役割を果たしていく

超高齢社会における課題
介護や支援を必要とするなど心身に不安を抱える方の増加
高齢者や障がい者が活躍できる機会の創出
高齢者が地域や他の世代と交流できる機会の増加



保養センター駒岡の果たすべき役割
保養機能の充実・強化
高齢者・障がい者の活躍の場の提供（運営等の参加）
コミュニティ醸成機能の維持・強化

担うべき役割を果たすための今後の取組

【担うべき役割1 超高齢社会における保養機能の充実・強化】

取組の方向性

- 介護や支援を必要とする高齢者等が利用しやすいような環境整備
- 介護をしている方も一緒に保養できる場の提供

[具体的な取組]

- ・ 職員の対応力強化や、利用者の身体状況に合わせたきざみ食などの食事の提供
 - ・ 元気な高齢者はもちろん、介護や支援を必要とする方にも使いやすいように、施設設備のバリアフリー化をいっそう推進
- 上記の取組などにより客室稼働率を10%向上させることを目標

【担うべき役割2 高齢者・障がい者等の活躍の場の提供】

取組の方向性

- 高齢者や障がい者がそれぞれの意欲や技能、能力などに応じて運営の一部に参加
- 介護予防の観点からも高齢者の積極的な参加を促進

[具体的な取組]

- ・ カフェの運営や館内衛生管理など施設運営の一部に高齢者や障がい者が参加
- ・ 運営に係るさまざまな物品・サービスを障がい者施設から調達
- ・ 障がい者施設製品を販売する「元気ショップ」の出前出店の受入

【担うべき役割3 コミュニティ醸成機能の維持・強化】

取組の方向性

- 利用者や地域住民の自主的な取組による交流機能の拡充
- 高齢者等の生きがいづくりや健康維持にも寄与

[具体的な取組]

- ・ 教養講座の体験利用を充実させ、高齢者と子どもが一緒に参加できるようにするなど、交流促進を目指した新たな活動メニューの提供
- ・ 利用者や地域住民主体の交流イベント開催の支援

存続にあたり解決すべき課題への対応

検討委員会から指摘された「存続にあたり解決すべき」課題と、その対応の方向性についての提言に基づき、以下のとおり対応する

【課題への対応1 維持運営コストの縮減】

附帯施設の整理

- 「熱帯植物館」と「屋内パークゴルフ場」は、維持修繕や運営の経費が大きい一方で、利用者数も低迷していることなどから廃止・取り壊し

	廃止・取り壊しによる経費の縮減効果額
大規模修繕費	今後5年間で約1.1億円（今後30年では約1.6億円）
運営経費	年間 約500万円

- 跡地については、新たな役割の充実にあわせて将来の適当な時期に活用方法を検討
- 人員配置等の見直しによる効率的な運営などにより、運営経費を年間約2,200万円縮減

【課題への対応2 適正な利用料金の検討】

- 提供するサービスの内容等を踏まえた適切な利用料について、新たな運営を開始する平成28年度に向けて引き続き検討

【課題への対応3 効果的・効率的な市民への周知】

- 介護サービス事業所や教育機関など、ターゲットを明確にした広報活動
- 利用者からの意見やアイデアの積極的な反映

市民が参画する運営

これからも時代のニーズに即した役割を果たすため、運営に利用者や市民の声をより適切に反映できるよう、運営協議会の仕組みの見直し

【新しい運営協議会のあり方】

施設運営のさまざまな課題について、必要なコストや効果なども踏まえながらその対応策について具体的な話し合いを行い、検討結果は適切に運営に反映
少人数によるワーキンググループでの検討や近隣の大学や学生への参画依頼など、柔軟で効果的な活動ができる組織に

施設の修繕等工事について

【修繕等工事の実施】

老朽化に伴う修繕工事を実施

新たな役割に合わせたバリアフリー化工事を実施

工事は配水管の交換など大規模なものとなり、この間は水道が使えないなど、通常の利用が不可能となることから、工事の期間（10か月程度）については施設を閉館

【修繕等工事に要する経費】

概算で6億円程度（金額は今後の調査・設計を経てあらためて精査）

【環境低負荷型施設への取組】

今後の修繕工事では、省エネ技術の導入などによって、現状よりもさらにエネルギー使用量の削減を進め、環境に与える負荷をいっそう低減

保養センター駒岡をごみ処理から発生する余熱活用の学習の場として利用するなど、環境教育においても活用

今後のスケジュール等

【基本方針に基づく今後のスケジュール】

平成25年度 基本方針の策定

平成26年度 修繕等工事のための設計の実施

平成27年度 施設を閉館し、修繕等工事の実施

平成28年度 基本方針に基づく新たな運営の開始

【検証について】

施設の利用状況や収支改善状況などを踏まえ、新たな運営の効果を継続的に検証

